

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第259回

小淵恵三

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年6月24日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉



ボキャ貧だからな、俺は、
ボキャブラリーが貧困だから
いい言葉がなかなか出てこない。
お疲れさまの一言だ。

小淵 恵三は、日本の政治家。位階は正二位。勲等は勲一等。学位は政治学修士。衆議院議員、総理府総務長官、沖縄開発庁長官、内閣官房長官、外務大臣、内閣総理大臣、自由民主党幹事長、自由民主党副総裁、自由民主党総裁などを歴任した。

Column

令和に元号が変わった時に菅総理もこの写真のように新元号を紹介していましたね。今回の言葉は、金融再生関連法案修正をめぐる、与野党協議が決着したことの感想を求められた時のものだそうです。総理大臣を歴任したような人物なのにボキャブラリーが貧困なはずがないと思いますので、おそらく労をねぎらう気持ちを伝える様々な言葉は頭の中にはあったはずですが、敢えてシンプルに『お疲れ様！』という言葉だけに凝縮させた小淵氏の優しさだったのではないかと感じました。そして、その気持ちは相手にしっかり伝わっていたのだらうと思います。

私も時々そうしてしまう時がありますが、自分の思いをより正確に、強く心に響かせたいと考えるあまり、様々な言葉を駆使して何とかしようとする場合があります。それは有効な手段と言えるものだと思いますが、時としてシンプルかつストレートな一言が“刺さる”こともあると改めて教えられたような気がします。そして、当時の本当に温和なイメージの小淵氏ですから、丁寧に言葉を選んで話すことのほうが多かったのではないかと思います。そういう意味でも今回の言葉の素晴らしさがより強く感じられ、日本のリーダーになるべくしてなった人物であり、日本古来の『美学』のような部分にも通じるような『日本人だな』と感じさせてくれる人物です。

人はその時々で自分を大きく見せたり等身大で振る舞ったりと、“使い分け”が必要な時があると思います。できることなら常に等身大の自分でありたいものです。そのためには仲間とのコミュニケーションを普段から密に取り、自分自身の理解者を増やすことが重要です。等身大の自分を受け入れてもらうために、まず取り掛かるべきことは『実は自分も知らなかった本当の自分』を知ることかもしれません。自分の最高の輝き方を深く理解し、小淵氏のように多くの人から信頼され、愛される自分をしっかりと磨いていきましょう！